

記念日に国会前で大行動 立憲政治にチェンジ



主催者あいさつをする小森陽一さん

5月3日憲法記念日に、国会正門前で、「とりもどそう民主主義、立憲主義2021平和といのちと人権を憲法大行動」が行なわれました。緊急事態宣言発令下でリモートとリアル併用の開催でしたが、国民投票法改定案の採決が企まれる緊迫した情勢で、多く市民が結集し、憲法を守る意思を示しました。

主催者を代表して小森陽一「九条の会事務局長は「生存権、国の生存権保障義務をうたった憲法25条に、菅政権のコロナ対応は全く違反してい



現場前で退場する従事者からアンケートをとるなど宣伝行動をする行動参加者

この現場では「定点観測」として宣伝を続けます。

【板橋・シャッター工事・内田恒夫通信員】3月初旬、地域の区議会議員を介して、「高島平フードバンク実行委員会」から、4月開催予定の「高島平フードバンク」に協力を要請され、場所の提供、フードバンク当日のスタッフとしての協力をする事になりました。

4月11当日は、午前9時

虎ノ門現場で宣伝、聞き取り

目当約1万円が2割も

4月27日、東京土建本部と事業所対策委員会が各支部に呼びかけて野丁場現場宣伝を実施しました。元ニッソー

ホール解体現場の虎ノ門1・2丁目地区第一種市街地再開発現場（森ビル・鹿島建設）に10支部と本部から33人の仲間が集まり、約1時間で51人からアンケートを集約することができました。

現場が病院のそばということもあり宣伝カーによる音出しはなし。「コロナ、CCUS、暮らしのことでお困りの方、東京土建に相談！」との横断幕を掲げながら、「一時支援金」や「建退共」についても周知しました。立ち止まってくれた仲間からはアンケートへの回答を通じて、コロナ対策として「モニターで朝礼が行なわれている」様子などと共に、切実な声が寄せられました。特に外国人実習生、女性、入社間もない労働者の低賃金が目立ち、2割以上の仲間が日当1万円前後であると回答しました。

「一人暮らし、助かった」 フードバンクに協力



舟渡高島分会センター前で行ないました

配布開始の午後1時以前から、多くの人が集まり、住宅街の中にある分会センターに人が密集しないように、近くの公園での待機誘導をしたり、交差点での道案内をして、集まった方には、消毒をしていただき、コロナ対策を取りながらの配布でした。

室内では、区議会議員、弁護士も加わった生活相談も行なわれ、希望者の相談を受け付けていました。

た。来場者は高島平、舟渡、徳丸、大山、水川町など板橋区内、足立区、北区からの人もおり、アンケートに「一人暮らしで困っていました。助かりました」など多くの感謝の言葉が寄せられていました。

GWに大人食堂

外国人来場者も目立つ



開場前には200人を超えるような長蛇の列。外国人の姿も目立ちました

5月5日、四ツ谷駅の近くの聖イグナチオ教会で反貧困ネットワークなどの市民団体による「ゴールデンウィーク大人食堂」が行なわれました。この取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大による生活困窮者を支援するというものです。

マスコミなどメディアの取材関係者も多くあり、あるテレビ関係者は取材の合間で『年末年始の『年越し相談村』の時より来場者が多い。貧困が広がっているという証拠だ。このような支援は、本来なら国がやるべきだ』と話していました。

摩多 5・17最高裁判決控え 三メーデー アスベストで訴え



訴える渡辺さん

ール登壇者と実行委員のみで式典を行ない、その模様をオンラインで配信しました。

芳賀次郎実行委員長は、「今年には都議会選挙と総選挙がある選挙の年。8時間働いて普通に暮らせる賃金、働くルールの確立をはじめ、メーデー

スローガンに掲げた項目一つ一つを実現するために奮闘しましょう」とあいさつ。

団体別アピールでは、東京土建を代表して渡辺義久副委員長が、5月17日に控えた建設アスベスト裁判の最高裁判決について「国、製造企業を断罪する画期的な勝利判決が予想され、全国の被害者救済を大きく前進させる確実な一歩となることでしょう」と力強く訴えました。

メーデー宣言の後、丸山篤義副実行委員長（東京土建副委員長）の団結カンパローで終了となりました。

ふえる生活困窮者 求められる公的支援

すめられようとしている政府・財界の「成長戦略」政策に抗することを訴えました。

その後、医療・社会保障の充実を目指して積極的に発言されている本田宏医師のビデオメッセージが紹介されました。また、薬剤師の千田恵美子さん（東京医労連）からは「五輪に看護職を送る余裕はない。都立病院の独法化は中止すべきだ」との決意表明、青年、首都圏青年ユニオンからは「ソフト制契約に最低労働時間を設けることを要求する」との発言もありました。